

H29年度 アクティブ・ラーニング（以下AL）校内研修会実施報告

日時 平成29年4月6日（木）
場所 多治見高校 3-D教室
参加者 本校職員42名
実施者 大宮 知野 本校理科教諭
テーマ ①転任者を含む教員間での
AL授業の体験
②AL授業をなぜ取り組むのか、
どんな効果があるのかの共通理解の育成



実施目的

本校は、昨年度より岐阜県教育委員会の指定を受けて、「魅力ある高校づくり推進事業」の中の「次期学習指導要領を見据えたカリキュラム開発事業」の研究に取り組んでいる。本年度で2年目になるが、昨年度行った生徒対象のアンケートの結果、なぜALを行うのか、それによりどんな力がつくのかを生徒がよく認識していないことが明らかになった。また今回は、転任や新任の先生を迎えて、教員間でもALの体験を通してその意義や効果について共通認識を図りたいと思い、校内研修会を企画した。

実施内容

今回の研修では、実際に今年の入学生を対象に行うAL型のLHR2時間分を1時間に凝縮する形で、教員が生徒役となり、協働的学習であるペアワークやグループワークを体験して、AL型授業の効果を確認した。今社会で求められている、コミュニケーション能力や協働的能力、また自己表現力やプレゼンテーション能力、聞く力、説明する力などが、仲間と協力したり、問題解決をしたりする実際の活動を通して身につけることができることを再確認する場となった。具体的な活動の内容は、ある漢字を使って協働的学習の効果を確かめるもの、また自分を表現するためお互いの自己紹介をし、それらの内容をグループになり、紹介しあったりするという内容であった。



写真1 まずは自分で問題解決に挑む



写真2 お互いの意見を交換するペアワーク



写真3 グループでの交流



写真4 立ち歩いて意見交流も



写真5 最後は個に戻り、振り返りシートの記入

<研修のまとめ>

今回の研修では、教員間での活発な意見交換によりALの効果性を再認識でき、共通認識が図ることができたと思う。内容的にはアイスブレイク的な面が強かったが、授業でも応用していきたいと考えている。しかし、授業においてAL型を展開するには当然のことながら最低限の知識が必要となってくる。いくら生徒にAL型授業で交流をさせようにも、自分の意見を持つためにはまず前提としての知識がなければ考えることができない。そのためにも①予習を効果的に活用すること、②数時間は講義型授業で知識をつけさせることも必要である。その上で、AL型とのバランスを考えた授業構成・授業展開を考えていく必要がある。また昨年度も話題になったが、AL型の授業は生徒も活発に活動できるというメリットはあるものの、どうしても話し合いや交流のみに終わってしまい、授業の中で最低限の知識が獲得できたのか、どの程度定着したのか、授業の目標がどれくらい達成できたのかがわかりにくいという課題がある。そのため今回は、研修の最後に「振り返りシート」に記入してもらい、本日の内容がどれくらい理解できているかを書いてもらった。実際の授業の中では、「振り返りシート」の他に、授業の最後に確認テストを行ったり、次の時間に小テストを行ったりするなどやり方はいろいろあると思うが、定着度の把握は確実にやりたい。何よりも今回の研修では、AL型授業の本質である「自分で考えることを大切にされた個の学習→その意見を集団で話し合い意見交換をする→最後に定着したかを個に戻す」この「個→集団→個のサイクル」の重要性を教員が改めて認識できたことは大きな収穫であった。

(文責 大宮)